

単元目標		<p>○凹版（ドライポイント）の特性を理解する① ○テーマ「私の日常」を深く探究する①② ○自分の下書きを他者や AI を用いて客観視する③ ○客観視して気付いたことを基に下書きを手直しする③ ○下書きにペンを入れた後、彫りの作業を行う③④ ○摺りの工程を学び、プレス機を使って印刷を行う⑤</p>	
第一次	<p>版画の種類と特性を知る</p> <p>線描の特徴を理解する</p> <p>Canva でマインドマップを作ってイメージを膨らませる</p>	<p>① 1 ・ 2 / 12</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれて、版画の種類と特性についての調べ学習し、発表する グループ毎に凹版画の作品鑑賞を通して線描の特徴を考察する AI で画像分析をする AI の分析と自分たちの考え比べ、新たな気づきを発表する 課題のテーマを理解 過去作品の鑑賞 マインドマップを作成
第二次	<p>グループ内での情報交換による自己理解及び他者理解</p> <p>画像生成 AI の壁打ちによる共感と違和感の体験</p> <p>素案作成によるイメージの具現化</p>	<p>② 3 ・ 4 / 12</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれて、自分の思い浮かべたイメージを他者に伝える 浮かんだイメージを言語化しプロンプトとして、AI で画像生成を行う 画像生成 AI の壁打ちを通して画像生成の経験を増やし、イメージの補助に繋げる エスキス作り
第三次	<p>下書きの制作</p>	<p>② 5 ・ 6 / 12</p>	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆とケント紙を用い、作品の下書きを制作していく

【単元全体に関わる問い（学習課題）】
「版画制作において、AI はコーチまたは相談できる他者としての役割ができたか」
【ファインアートにおいて、AI をコーチまたは相談できる他者として、個別最適化を図る】
「グループごとに凸版、凹版、平版、孔板の特性を調べ、スライドにて発表しよう」
 ・版画の基本 4 種類の特性と今回の制作に使用するドライポイントの特性を理解させる
「デューラーやレンブラントの版画作品を鑑賞して、グループ内で線描の特徴を考えよう」
 ・作品鑑賞を通して、凹版や線描の特徴を考察させる
「AI に線画の特性を画像分析させてみましょう」
「AI が行う画像分析と自分たちの考えを比べて、AI が提供する新しい視点があれば、それをスライドに追加して発表しましょう」
 ・画像の送信方法を知る（ChatGPT、Gemini）
 ・AI の分析と自分たちの考察を比較し何か気づきがあるかを考え発表する
 ・プロンプトそのものを AI に作らせることもできることを知る
「今回の課題のテーマは”私の日常”です。」
「昨年度の生徒作品の鑑賞を通して作品のテーマの意味を理解しましょう」
「自己を内省し、日常の中で自分が尊いと思える瞬間を作品として表現しましょう」
「Canva のホワイトボードでマインドマップを作成し、”私の日常”を掘り下げてみましょう」
 ・自分の日常を掘り下げて、その中でも特別感のある場面（状況）を探っていく

「グループに分かれて、自分の思い浮かべたイメージをみんなに伝えましょう」
 ・他者の感想を聞くことで、自己評価や他者理解に繋げる

「イメージを言語化しプロンプトとして、AI で画像生成をしましょう」
「生成した画像をもとにグループ内で共感や違和感を共有しましょう」
 ・ChatGPT（画像ジェネレーター）、Adobe Express、Canva 等で画像を生成する
「Padlet に生成した画像を送信し、他クラスとも情報を共有しましょう」
 ・Padlet に生成した画像を送信し、他クラスとも情報を共有する

「配布したプリントに素案を描いてみましょう」
 ・生徒の過去の作品、グループ内の検討内容を参照しつつ、自分の作品のイメージを具現化していく

「素案をもとに鉛筆で下書きを制作してみましょう」
 ・場所、時間、季節、天気、気温など状況を支える五感を意識させる
 ・ドライポイントの特性を理解し、線で表現させる
 ・直線、曲線、ラインハッチング、クロスハッチングを意識させる
 ・次回、写真が必要であれば用意しておくように伝える
 ・アイビスペイント、クリップスタジオ等デジタルツールの使用も可とする

<p>第四次</p>	<p>【研究授業】 グループ内での下書きの講評会</p> <p>AI からの下書きに対するアドバイスを受ける</p> <p>AI 画像生成を使ったシミュレーション画像の作成と鑑賞</p> <p>全体講評会</p> <p>下書きの手直し</p> <p>ペン入れ</p>	<p>③ ④ 7 ・ 8 / 12</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で作品を講評し合い、意見を交換する ・下書きの画像も添付し講評の意見とともにスライドにまとめる ・AI によるアドバイスの検討（画像分析） ・フィードバックをもとにさらに質問や意見を投げかけ探究を深める スライドに AI の分析結果も加える ・画像生成を使ったシミュレーション画像の作成と鑑賞 ・全体講評会 ・下書きの手直し ・下書きにペンを入れる 	<p>「4つのグループに分かれ、それぞれの下絵を鑑賞して講評し合いましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな状況を表現しようとしているか ・気持ちが伝わる下書きになっているのか ・構図、明暗、質感、量感等について考える <p>「下書きの画像を AI に送信し、プロンプトを工夫して講評やアドバイスをもらいましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ性、構図、明暗、質感、量感等についてアドバイスをもらう ・グループ内で AI のアドバイスについて検討してみる <p>「ChatGPT（画像ジェネレーターのアドバイスをもとに画像を生成させよう）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロンプトを工夫し、より参考になりそうな画像が生成できるようにする ・画像生成が2～3回までできるので、さらにプロンプトを追加し画像を生成する ・Gemini や Canva も使用し、画像を生成してみる <p>「講評結果を発表しましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドにて発表 ・グループ内アドバイスと AI 分析で気付いたことを発表する <p>「グループ内の意見や AI のアドバイスを参考に、下書きの手直しをして表現をより確かなものにしていきましょう」</p> <p>「下書きの手直しに納得したら、ペン入れを始めましょう」 「ドライポイントの特性を考えながら下書きにペン入れをしましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鏡反転はコピー機で行うので考えなくても良い
<p>第五次</p>	<p>コピー機で下書きを鏡像反転にする</p> <p>樹脂板を彫る</p>	<p>⑤ 9 ・ 10 / 12</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下書きを鏡反転コピーする ・ニードルの使い方を練習する ・コピーを樹脂板の下に敷き、版を彫っていく 	<p>「下書きを鏡反転コピーしましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術室のプリンターと職員室のプリンターを使用 <p>「YouTube 動画を視聴しニードルの使い方を理解しましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習プレートでニードルの使い方を練習する ・過去の作品の版下を参考に、彫る深さを理解する <p>「コピーを樹脂板の下に敷いて、版を彫っていきましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定どおりに彫れなかった部分は、上手に補正する ・彫る線の強弱や彫る角度に注意する

第六次	印刷の工程を確認	⑤ 11 / 12	・ 版画を印刷する	「YouTube 動画で印刷までの工程を確認しよう」 ・ インクの詰め方、拭き方、紙の扱い方を理解する ・ プレス機の使用方法を理解する 「インク詰めをしましょう」 ・ 多方向からインクを詰める ・ 余分なインクを布で拭取る
	プレス機を使用し印刷をする		⑤ 12 / 12	「版画紙を水で濡らしましょう」 ・ 版画紙の裏表の確認 「プレス機で印刷しましょう」 ・ トンボに合わせて印刷を行う ・ 摺りの状況に応じて、彫り足しや、再度インク詰めを行い、印刷する 「印刷が終わった人は、作品を撮影し、AI に感想を聞いてみましょう」 ・ 終了後、作品のエディションの考え方、サインについて理解する ・ 次回、額装することを予告 【単元全体に関わる問い（学習課題）】 「版画制作において、AI はコーチまたは相談できる他者としての役割ができたか」 ・ AI が美術の学習においてコーチになり得ることを知る ・ AI をどう使用するかは人それぞれだが、使用の仕方によって結果に差がつくことを知る

- 1 単元名 「版画表現」
 2 単元の目標及び単元の学習計画 (別紙の通り)
 3 本時 (第四次7-8時間目)

「美術I」授業案	日時：2024年12月18日(水) 教室：2階 美術教室	生徒：1学年(10名) 授業者：松久 充生
----------	---------------------------------	--------------------------

- (1) 本時の目標 他者やAIの視点を借りて客観的に見直し、そこから得た気づきをもとに下書きを手直しすることで、表現をより豊かにしていく
 (2) 学習の展開

	学習項目	学習者の活動	学習形態	授業者から学習者への働きかけや支援	評価規準 (評価材)
導入 5 Min	本時の問い(学習課題)の確認 (学習の見直し)	<p>問い(学習課題)「版画制作において、AIはコーチまたは相談できる他者としての役割ができたか」</p> <p>○前時の活動の確認と本時の活動の確認(5Min) ・グループの意見交換やAI画像分析を活用して、自分の作品を客観的に見直し、改善点を手直しして表現をより豊かにしていく</p>	個別	「この授業の目標は、グループ内での講評やAIからのアドバイスを活用して、下書きを手直しし、より表現豊かに仕上げることです」	
展開 85 Min	<p>グループ内での下書きの講評</p> <p>AI分析によるアドバイス</p> <p>シミュレーション画像の作成と鑑賞</p> <p>全体発表</p>	<p>○グループ内で作品の講評をし、意見を交換する(10Min) ・自分の下書きについて説明する ・他者の下書きについて感じたことや考えたことを述べる ・下書きの画像を撮影してスライドにまとめる</p> <p>○AIによる画像分析の検証(画像分析)(15Min) ・ChatGPTやGeminiにテーマ性、構図、光と影、動きなどの表現について質問し、フィードバックをもらう ・フィードバックをもとに質問や意見を投げかけてみる ・スライドのまとめにAIの分析結果を加える</p> <p>○画像生成を使ったシミュレーション画像の作成と鑑賞(15Min) ・ChatGPT、Canvaでシミュレーション画像を生成し鑑賞する。 ・プロンプトを工夫して、より参考になる画像を生成できるようにする ・画像生成の制限内で、さらにプロンプトを追加して画像を生成する ・シミュレーション画像もスライドの添付する</p> <p>○講評結果の発表(25Min)</p> <p>○自己表現の確認と追加修正(20Min) ・グループ内の意見やAIのアドバイスを参考に、下書きの手直しをして表現をより確かなものにする</p> <p>○ペン入れ ・進みの早い生徒は、下書きにペン入れをする</p>	<p>協働</p> <p>個別</p>	<p>「4つのグループに分かれ、下絵の講評をしましょう。」 ・どんな状況を表現しようとしているか ・気持ちが伝わる下書きになっているのか ・構図、明暗、質感、量感等について考える ・スライドにまとめていく</p> <p>「下書きをAIに送信し、プロンプトを工夫して講評やアドバイスをもらいましょう」 ・テーマ性、構図、明暗、質感、量感等についてアドバイスをもらう</p> <p>「アドバイスを基に画像を生成してみよう」 ・シミュレーションを通して共感や違和感を体験する</p> <p>「講評結果を発表しましょう」 ・スライドにて発表</p> <p>「グループ内の意見やAIのアドバイスを参考に、下書きの手直しをして表現をより確かなものにしましょう」 「手直しが終了した人から、ペン入れを始めましょう」</p>	【知思表】 他者やAIの助言を活用した自己表現の深化度
終末 10 Min	本時の問いの解(学習課題の振り返り)	<p>問い(学習課題)「版画制作において、AIはコーチまたは相談できる他者としての役割ができたか」</p> <p>○今回のAIの画像分析を利用した授業を受けて、この単元(版画)全体について何か変化はあったか、また、なぜそう感じると思うかを振り返る</p>	個別	「今回のAIの画像分析を利用した授業を受けて、この単元(版画)について何か変化はありましたか。また、なぜそう感じると思いますか。」 ・フォームにて回答を授業者へ送信	【思】 スプレッドシート 記載内容